

容器変更伴う採取方法および 抽出方法の変更のお知らせ

ISO15189:2012
認定取得

2025年2月

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。

この度、顆粒球エラスターの容器変更に伴い、抽出方法についても変更させていただきます。

先生方には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご了承賜りますようよろしくお願い申し上げます。

敬白

記

容器の変更（顆粒球エラスター）：No.64

● 移行開始期日：2025年2月末頃から順次変更させていただきます。

● 変更内容：容器の変更は「お知らせ OSF-80-2439 容器変更 頂粒球エラスター」でご連絡させていただいております。

項目コード	項目名称	新容器	現行容器
9617	顆粒球エラスター (容器No.64)		

検体採取及び抽出方法は裏面をご覧ください

■ お問い合わせ、ご意見、ご指摘、ご要望先
 株式会社 大阪血清微生物研究所

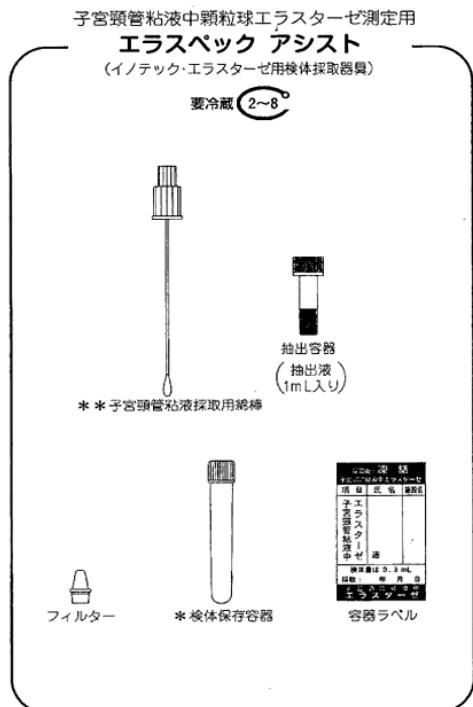
カスタマーセンター
 本社 (06) 6322-4531
 奈良支社 (0744) 24-0530
 田辺支社 (0739) 22-8740
 株式会社 大阪細胞病理研究所 (06) 7634-0360

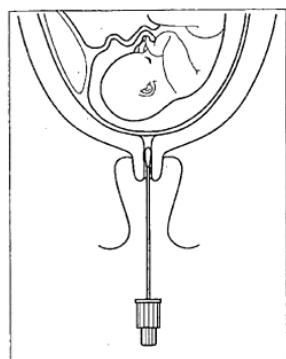
■留意事項

*綿棒変更に伴う測定値は、抽出方法の手技により、影響度が大きいことが確認されています。

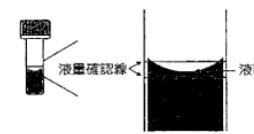
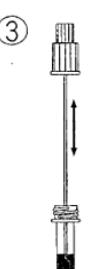
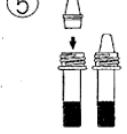
*現綿棒(変更前)と新綿棒(変更後)を使用しての抽出では手技が異なりますので、採取の都度、抽出方法をご確認のうえ採取、抽出をお願い致します。

子宮頸管粘液検体採取及び抽出方法



1	検体採取方法
<p>①子宮底部の粘液を綿球で丁寧に拭い取ります。</p> <p>②綿棒を子宮頸管内腔に挿入します。</p> <p>③綿棒をゆっくりと2回転させ、頸管粘液(滲出液)を採取します。</p> <p>■ 注意事項</p> <p>1)子宮頸管部より採取して下さい。</p> <p>2)検体採取は腹部洗浄前に行って下さい。</p> <p>3)綿棒が外子宮口周辺の分泌物や粘液に接触しないようにして下さい。</p> <p>綿棒の先が初めて接触する部分が頸管内腔であるように挿入して下さい。</p> <p>4)綿棒1回転あたり約5秒をかけ、自然に粘液(滲出液)をしみ込ませるようにして下さい。</p> <p>少量の固形物が付着した場合には、ピンセット等で取り除いて下さい。又、大量の固形物が付着した場合には、検体採取をやり直して下さい。</p> <p>〈採取前〉 〈採取後〉</p>  <p>5)採取した検体は15分以内に抽出操作を行って下さい。</p>	

HE-8

2	**抽出方法		
①	②	③	**④
 <p>抽出液の液面が、抽出容器の液量確認線の間にあることを確認します。なお、抽出液がキャップ中栓に付着している場合があるので、振り落とした後に液面の確認を行って下さい。</p>	 <p>頸管粘液(滲出液)を探取した綿棒を浸けて、2~3分間放置します。</p>	 <p>綿棒を20~30回細かく上下させて検体を抽出します。</p>	 <p>**検体抽出液がしみ込んだ綿棒を、抽出容器壁面に軽く押しつけて、抽出液が滴らない程度にした後、取り除きます。</p>
⑤	⑥	⑦	
 <p>フィルターをセットします。</p>	 <p>検体抽出液を検体保存容器へ濾過します。この時の加圧は1回のみとし、5~7滴(約300μL)を分取します。</p> <p>必要量を得られない場合は検体採取からやり直して下さい。</p>	 <p>検体保存容器にキャップをし、容器ラベルを貼って保存します。冷蔵(8°C)で3日以内、冷凍(-15°C以下)で3ヶ月以内に測定して下さい。</p>	